

1977.3.10

東京蜘蛛談話会



3月号

— 小さいもくじ —

<きまぐれポスト>

- 机の奥から出してきた採集記 p 1
- 昔むかし p 2
- 輸血、薬剤で治療 p 4
- 23日「つらぐも」 p 4
- 天から降るゴッサマーのこと p 5



<談話室>

- 新会員紹介 p 6
- 蔵書目録 p 7
- クモに関する用語Ⅳ p 6~
- <けいじはん> p 8



きまぐれ ポスト

春はほど遠く思えるような2月ですが、あちこちの会員のみなさんからホットな便りをたくさんいただきました。

5月号あてにも是非気楽なホットラインをつくってください。よろしく。
(田中)

●机の奥から出してきた採集記●

7月2日、今日は、水旺会第2回採集会が決定される日である。

9時30分 横浜駅の横須賀線ホームには、クモに飢えた異様な目つきをした横浜の過激派が2人、出陣を待っている。例によって東京の問題児(結婚のうわさがしきりと出ているから、兎てはないかもしれない)は、まだ姿を見せない。

待つこと40数分、過激派はいきり立ち、水旺会は解散だと口々にわめきちらしている。さあ解散だと、日頃からこのキチガイどもに悩まされているおまわりさんは、そばでよるこんでいる。ところが数秒後、スルスルと緑の電車がとなりのホームにはいりこんで来て、として...

その中から、あの東京のS氏が「いつものように平然とした顔で降りてきたので」ありました。(さすが大写真家。)

その何もなかったような平然としたその顔を見たとき、もうあきれかえって人のいい横浜のバカ2人は、角筈敷をとりやめにしたのであります。

これを見て、おまわりさんが「ういりました。「死刑！」」

かくして、水旺会の採集会は、はじまったのであります。列車に乗りこみ、その中で行き先を決めることになりました。

横浜のK氏は言いました。

「この列車は、国鉄のものだ。」というときは、おれのものだ。だからおれの好きな所へ行かせる。」

横浜のY氏は言いました。

「うるせえ、税金どろぼう。おれはうちに帰る。」

K氏は反論しました。

「なに、お、悪徳商人め。」

この言葉で、Y氏は家に帰る決心をしました。しかし、電車賃がもったいないから行くことにしました。

東京のS氏は、何も言いません。列車の中から一所懸命、クモを見つけています……

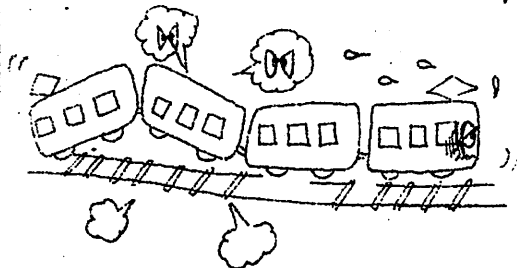
— 続 —

S氏 (言わずと知れた大写真家)

K氏 (税金どろぼう国鉄職員)

Y氏 (悪徳商人)

〈水旺会 Y氏からの報告でした〉



普むかひ

毎日新聞 日曜くらぶ (1976年11月21日付)

クモの女神が自ら語る物語

わたしは毎日、刺しゅうをして、→所を見つけて暮らしてಿದೆ。

ある日、はるかの沖の方から、何神かやってくる音が、四方を鳴動させていたが、私の家の真上に、ミンタ(神駕=ゆりかご)をとり、しばらく物音も絶えて、静まりかえっていたが、やがて神の物音が、凄然(りんぜん)と響いて

「さあ、この屋敷にふるまひの女神よ、一か月のいいうこともよく聞かせて下さい——愛の聲(ニシヨシツクイ)の彼方に村を浴びてゐる大魔神(オホ・ユウズネ・カミ)が、あなを愛してゐる。そのため、あなをかくしめかしに、今にも押し寄せて来ようとする身支度をしてゐるのだから、わたしに、大魔神が押し寄せて来る時、心配なご、それを知らせに、わたしは来たのです」といふたので、

「わたしもわたしは、世の常の神であらうが、愛い神ではなかつた。軽々しい振舞が出来ようかと思、たの空気がついで、黙って、いつものように、変わりなく日を暮らして、何日か過ぎた。

ある日、また何かの神が押し寄せて来るらしく、その轟音が、わたしの家の真上に、ミンタをかけた。物音が、高く凄として響き渡った。

「うそを、わたしはたのてでもいのに、自分の暮らしている女神は、わたしのいいうことと関係がないが、何もせずにはいられない、大魔神はもう、こちらへ寄せて来ようとする。それを知らせに、わたしは来たのですよ」といふたので、振り返って見ると、大魔神はもうすぐ押し寄せて来つつある。

そこで、わたしは、わたしの座敷(10川の石座=主人の座の場所)に細川針男(アネ・カミ、オホ・カミ)を呼び立て、10川の火の中へ、ワリ男(ヤム・オホ・カミ)を埋めて置き、庭のほとりに、大貫川竹男(シツヤ・オホ・カミ)をひざませ、水碓の中へ、ハビ男(トッコ男=オホ・カミ=ムスガ?)をかくし、内戸の上にはキネ男(イナメ・オホ・カミ)を、外戸の上にはワリ男(ニス・オホ・カミ)をのせて置いた。



..... 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ

天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ
 天から 3 コッサマ

談話室

— 新会員の紹介 —

本年度 さっそく入会していただき
 ました。よろしくおねがいします。(田中)

〒231 横浜市中区山手町 178
 フェリス学院中高等学校 生物部

〒191 日野市 程久保 483-12
 TEL. 0425 (91) 1766
 松田まゆみ (玉川大 農学部)

〒192 多摩市 永山 4-4-20-301
 TEL. 0423 (71) 2752
 吉谷昭憲 (フモのスケッチなどを
 すらすら書いてまいります。)

〒222 横浜市 港北区太尾町 644
 TEL. 045 (541) 2979
 吉原克秀 (高一)

クモに関する用語 - IV -

Willis J. Gertsch (1949) AMERICAN
 SPIDERS. D.VAN NOSTRAND Co.Inc.,
 (Princeton) pp. 267-270 Glossary
 の訳です。術語の訳は一般的と
 思われるものを採用しました。(松本)

Sexual dimorphism
 「性的二型」「雌雄二型」同じ
 種の両性の間にみられる形、色、大きさ
 等が異っていること。

Spermathecae
 「受精のう」女性の精子を貯えておく
 ヲコバク

同音語 フツキ ↓
 上述のレヒシタム(外雄器)中の容器。
 Sperm web;
 「生殖網」少しあるいは多くの糸でつくられた網で、雌は触肢へ精液を移す準備のため、この上に精液をつける。
 Sperm induction:
 「精子移入」雌の触肢の容精体へ腹部下面の生殖口から精子を移す過程。
 Spermatozoa;
 「精子」成熟した精細胞。
 Spiderling;
 「子クモ」普通卵のうから出たばかりの形をした小さい未成熟のクモを言う。
 Spinnerets;
 「糸紡」糸が糸紡き出されるクモの腹部にある指状の付属物。
 Spiracle;
 「気門」気管あるいは書肺に通じる呼吸のための孔。
 Stadium;
 「葉月」節足動物の脱皮と脱皮の間

↓ の時期; 今のこ; 節足動物の発育における時期。
 Sternum;
 「胸板」頭胸部の下面を作っている基節の間のキチン化した板。
 Tarsus;
 「跗節」足首から下の部分(foot); 歩脚の最末端の節でこの先端には爪が生えている。
 Tergites;
 「背板」体の背面のキチン板; 体節を示す特異的な地中性クモの腹部にある硬くなった板のこと。
 Thorax;
 「胸部」昆虫では体の第2番目の部分で歩脚が生じている; クモでは頭部と融合して頭胸部を形成する。
 Tibia;
 「脛節」クモの歩脚の第5番目の節、膝節と蹠節の間の節。
 Tracheae;
 「気管」昆虫にある空気の通じる管; クモでは変化した書肺であると考える人が多い。起原の異なる管状の呼吸器官。
 フツキ →

東京蜘蛛談話会蔵書目録

(コピーに依ります。申し込みは事務局まで)

No. ⁷⁵69
 Denny, M. (1976) The Physical Properties of Spider's Silk and their Role in the Design of Orb-Webs.
 J. exp. Biol., 65: 483-506
 No. ⁷⁷70
 Yamashita, S. & H. Tateda (1976) Hypersensitivity in the Anterior Median Eye of a Jumping Spider.
 J. exp. Biol., 65: 507-516
 No. ⁸⁰71
 Dondale, C.D. & J.H. Redner (1976) A Review of the Spider Genus Philodromus in the Americas (Araneida: Philodromidae). Canadian Entomologist, 108: 127-157

2ygot0:

「接合子、受精卵」

一以上一

「言語・談話に不適当なものが多く
 あります。ご教示ください。
 Gertscho Grossaryは、この中で
 終りました。この頃の責任は松本
 にあります。」

川心は又

KISHIDAIA No.41 原稿日
 1977年 3月21日 到着 定価2200円
 所以降到着 正味は 42号用紙
 501号紙。
 編集委員 会

●52年度会費
 52年度会費は、1500円にな
 っており、(おはため、)に
 ※会費を振込式、ごかて、さ
 ぶらになりました。

東京-7・74885
 東京蜘蛛談話会

●文献
 ●KISHIDAIA No.77 No.11-を販売
 します。
 ※その他文献・コト-に、おら
 ます。(事務局まで)

●標本同定会のお知らせ●

標本同定会は、こないすので、
 参加希望の方は、標本整理して
 おいてください。

※標本1本に、1個人
 入さすにしてください。

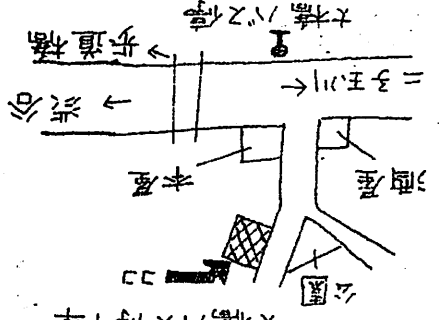
※標本1本に、1ラ-グ-を
 入れておいてください。

日時：4月10日(日)

午前10時00分より

場所：目黒大橋区民会館

◎渋谷駅南口からバス
 大橋バス停下車



室：N2集會室
 参加費：300円
 (おまけでおか、原稿の用意をして
 きてください。)

東京蜘蛛談話会

〒191 東京都日野市豊田 1896
 萱島 泉 方

phone: 0425 (81) 7128

合計 ¥185 国分寺市本多1-6-6
 新三栄 栄 一方
 phone: 0423-(21) 0289

会費 52年 1500円
 発行責任者: 田中理恵